

(様式第 1 号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和 7 年度 第 1 回 芦屋市女性活躍推進会議
日 時	令和 7 年 7 月 2 9 日 (火) 午前 1 0 時～ 1 1 時 3 0 分
場 所	芦屋市役所分庁舎 2 階 大会議室
出 席 者 (敬称略)	会 長 中里 英樹 副 会 長 萩原 紫津子 委 員 鹿島 圭子、勝部 尚樹、小山 ゆり、高木 良太、中村 馨乃信、 橋野 浩美、須澤 美佳、長谷 啓弘、新妻 佐奈江、西海 文子 欠席委員 なし
事 務 局	市民生活部長 和泉 みどり 市民生活部市民室主幹 (女性活躍支援担当) 小杉 頼子 市民生活部市民室人権・男女共生課長 竹内 浩文 市民生活部市民室人権・男女共生課男女共生係長 今泉 公佑 市民生活部市民室人権・男女共生課員 橋本 麻理奈 市民生活部市民室人権・男女共生課女性活躍コーディネーター 桐山 衣代
会議の公開	■ 公開 ----- □ 非公開 □ 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者全員の賛成により決定した。 [芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の 3 分の 2 以上の 賛成が必要] ＜非公開・一部公開とした場合の理由＞
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会・委嘱状交付
- (2) 部長あいさつ
- (3) 会議公開の説明・委員紹介
- (4) 会長の選出・副会長の指名
- (5) 議事：令和 6 年度女性活躍推進事業実績報告及び令和 7 年度実施計画
- (6) その他

2 提出資料

令和 7 年度第 1 回芦屋市女性活躍推進会議次第

資料 1：女性活躍推進事業令和 6 年度実績報告・令和 7 年度実施計画

資料 2：ASHIYA RESUMEプロジェクト2024実施事業一覧

3 審議内容

＝開会・委嘱状交付＝

＝部長あいさつ＝

＝会議公開の説明・委員紹介＝

＝事務局紹介＝

＝会長の選出・副会長の指名＝

＝議事＝

事務局／小杉：ここからは、中里会長に議事進行をお願いいたします。

中里会長：では、議事「令和6年度の女性活躍推進事業の実績報告と令和7年度の実施計画」について、事務局から説明いただきたいと思います。

●事務局より「令和6年度女性活躍推進事業実績報告・令和7年度実施計画」について資料に沿って説明

中里会長：委員の皆様が大いに関わっていただき、事業が成り立っているということがよくわかる報告でした。実際に事業に関わった方から補足説明をいただいても結構ですので、皆様より自由にご質問・ご意見を伺いたいと思います。

萩原副会長：「女性の部下と働く管理職向けセミナー」とありますが、女性管理職の育成、現状の女性管理職を支援するような女性管理職向けセミナーの開催は検討していますでしょうか。企画されていない場合、参加者が見込めないような状況があれば教えてください。

事務局／小杉：「女性の部下と働く管理職向けセミナー」は、女性に限定したものではなく、幅広くご参加いただきました。芦屋市で企業向けセミナーを開始したのは数年前ですが、市内に大規模な企業が少なく、家族経営の小規模企業が多いため、集客が難しい状況です。さらに女性の管理職に限定すると、集客がさらに見込めないことから、これまで企画したことはありませんでした。しかし、萩原副会長のご意見を受け、女性ならではの悩みを共有できるセミナーも有効であると認識しました。

萩原副会長：小山委員いかがでしょうか。女性管理職としてグループ長を務めていらっしゃいますが、企業の中で女性の管理職はまだまだ少なく、セミナーの対象者はいないという状況でしょうか。

小山委員：弊社の管理職における女性比率は年々増加していますが、それでも約16%です。女性管理職ならではの悩みは多く、管理職になってから産休・育休等を理由にキャリアを見直しせざるを得ない方もいらっしゃいます。そのため、女性管理職に向けたセミナーは、管理職を目指す方、および現職の管理職の方々にとって、支援となるのではないかと思います。

長谷委員：芦屋市の人事担当の立場から申し上げますと、芦屋市役所の管理職における女性比率は30%を超えており、兵庫県内でも高い割合です。一方で、小山委員がおっしゃるように女性管理職ならではの課題があると考えています。現在、人材育成に関する職員アンケートを実施しており、そのなかで、課題が明らかになることを期待しています。最近では「管理職にな

りたくない」という意見もあるため、女性に特化した研修企画の可能性を検討したいと考えています。

橋野委員：芦屋市には小規模企業が多いとのことですが、個人事業主として活躍されている女性も多く、そういった方々も同様の課題を抱えている可能性があります。

中村委員：橋野委員の意見に補足しますと、商工会には女性部がありますが、事業主の妻として集まっていた以前とは異なり、自身が事業主や後継者である女性が増えてきていると伺っています。

須澤委員：市内に企業が少ないとのことですが、市内の企業に勤めている方に限らず、芦屋市在住で他市に勤務されている管理職の方々も対象とするのはいかがでしょうか。

事務局／小杉：はい。ありがとうございます。

中里会長：「女性の部下と働く管理職向けセミナー」は企業や商工会を通じて募集しているのでしょうか。

事務局／小杉：個人での申込みも受け付けております。また、企業向けを想定していましたが、開催は平日の午前中にしてはいますが、芦屋市に在住で他市に勤務する管理職も対象とする場合、土曜日の開催も検討すべきだと考えています。

中里会長：あるいは平日開催でも有休を取得して参加したくなるくらい魅力、ニーズがあれば集客が見込めるかもしれません。また、現状の募集方法ですと、市内の企業を対象としているように受け止められると思います。

実際に、街では男性が保育園に子どもを迎えに行っている様子もよく見かけるため、共働きで男性・女性ともに子育てに関わる家族が多いことが見受けられます。そのため、阪神間においても管理職に占める女性の割合も比較的高いと思います。

須澤委員：講座の告知方法についてお伺いします。子育て世帯に対し、どのようなアプローチで集客を図っていますか。

事務局／小杉：子育てセンター等でのチラシ配布や、子育てアプリでの情報配信を行っています。加えて今年度は、市内の保育園や幼稚園に対し、ステップ相談等の周知も行っていきたいと考えています。

須澤委員：子育てアプリのインストール率はどの程度でしょうか。

事務局／小杉：多くの方にご利用いただいております。子育てアプリでは、対象のお子さんの年齢層を選択し、プッシュ通知をすることが可能となっています。

須澤委員：昨年、芦屋市と明石市で同様のセミナーを実施した際、芦屋市は参加者 6 名に対し、明石市は全 3 回の開催ではありましたが、約 230 名でした。人口比を考慮しても差が大きいのは、告知方法の違いが原因だと思います。「ミマモルメ」や、LINE のような保護者に通知が届くツールを活用している自治体もあります。芦屋市も子育てアプリだけではなく、他のツールも活用するのはいかがでしょうか。

勝部委員：保育所のチラシブースには、常にイベントのチラシが置かれており、目にする機会が多いと思います。

子育てアプリは、私もこどもの年齢が低いうちは子育てセンターの空き状況確認などでよく利用していました。その頃は、「女性のためのステップ相談」の告知も頻繁に目にしていました。しかし、こどもの成長とともに利用頻度が減り、アプリを削除する方も多いと思います。

事務局／小杉：話が前後しますが、先ほど須澤委員よりご質問いただいていた、子育てアプリの登録者数についてですが、令和 6 年度末の登録者は 1200 人以上です。

中里会長：子育てアプリは通知も届きますか。

勝部委員：通知設定は可能で、イベントのお知らせが届きます。

中里会長：LINE は登録を促す仕掛けが効果的で、他の媒体と比較しても目に触れやすい状況にあるかと思います。

集客や情報発信を仕事でされている方も多いと思いますが、提案がある方はいらっしゃいますか。

鹿島委員：学校へのチラシ配布は、こどもが中学生になると保護者も多忙なため、情報が届きにくい場合があります。そのため芦屋市 PTA 協議会で講演などを実施する際は、ミマモルメやメールでの情報発信など、データでの連絡方法を検討していますが、現状では難しい状況です。紙媒体ではなく、データで情報発信をしていく方が効果的だと考えます。

高木委員：芦屋市には公式 LINE アカウントはありますか。

事務局／小杉：道路や公園の不具合の通報に使用しているアカウントはあります。また、LINE VROOM というタイムラインにおいて、相談事業の告知を載せていますが、使用用途は限られており、講座の告知には現状使用できません。

高木委員：男女共同参画センターで LINE アカウントを作成することはできないのでしょうか。

事務局／小杉：各自治体につき開設できるアカウントの数が限られており、複数開設する際の費用の関係や、登録者数がどれだけ増えるのかといった懸念点があります。

事務局／竹内：芦屋市でも SNS の整理を進めている傾向があります。

高木委員：子どもが持ち帰る書類はランドセルの下敷きになっていることも多くあります。ペーパーレス化が進むなか、公式 LINE アカウントがあれば、講座や学校からの案内をプッシュ通知で周知できることも増えるのではないのでしょうか。当社では、サービスの案内をする際に、連携先である商工会の公式 LINE アカウントが最も効果的でした。閲覧数が 10 倍以上に増加した実績がありますので、今後の周知活動の参考にしてください。

事務局／小杉：ありがとうございます。

中里会長：情報をありがとうございます。他の点についてもなにかご意見・ご質問等がありますか。

勝部委員：NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西として沢山ご依頼いただきありがとうございます。我々の立場としては、女性活躍のために男性の家庭進出を支援するという趣旨で活動しています。「パパ向け防災料理講座 パパが叶えるバースデーオムライス」のようにイベント的な要素が強く、父親が遊び役に終始してしまうことに懸念点を感じています。日常の家事・育児、ケアの主体としての父親の役割を伝える講座や、育児休業取得等を支援するような事業を検討してはどうでしょうか。

中里会長：その点について、何かご検討されていることはありますか。

事務局／小杉：講座がイベント的になりがちな点は認識していますが、父親に興味を持ってもらえるような講座になるように企画しております。

昨年度実施した「家族会議のススメ～家族みんなのワークライフバランス～」のように夫婦のコミュニケーションや家事・育児分担を促す事業も実施しており、今後このような講座も増やしていければと考えています。

勝部委員：「家族会議のススメ」は良い取組だと思いました。「パパタイム」も開催当初と比べ、盛況であることが伺えます。受講者は家事・育児参画への意識が高い方が多いと思うので、講座をきっかけに別の講座にもつなげてはいかがでしょうか。

中里会長：昨年度実施の「パパ向け防災料理講座 パパが叶えるバースデーオムライス」と、今年実施の「パパ向け料理講座 休日はパパに任せて！ライスペーパーサンドと食べ尽くスープと」の申込みが少ない件について、昨年も話題になったように思いますが、防災という要素が前面に出すぎている、あるいは難しい特別な料理に見えてしまうのではないかと懸念しております。より実用的で日常に活かせる料理というアプローチを検討すべきかと思います。また、「家族会議のススメ」は定員に達していないということですか。

事務局／小杉：「家族会議のススメ」はオンライン開催でしたが、想定よりも参加者が伸びませんでした。

中里会長：子育てへの関わり方が変化するなかで、「男性の産後うつ」という表現が話題になっていましたが、呼び方がどうであれ、子育てと仕事の両立で悩む父親が増えてきています。そのニーズに応える講座、講座内容の分かる募集が必要ではないかと思いました。

「パパタイム」は、運営方法も優れており、父親同士の交流の場として機能しています。私が参加したときは、育児休業取得者と非取得者が半分ずつの割合であったため、土曜開催は非取得者にとっての情報伝達の良い機会となったと思います。一方で、平日に子どもを連れていく場所が無い父親同士が出会う場所として、平日開催も検討してみてもはどうでしょうか。参加者の声からニーズを把握し、具体的な計画を立てていくことが重要だと思います。

事務局／小杉：ありがとうございます。

高木委員：男性の日常生活の参画レベルは人によって異なります。SNS で、「パパのスキルチェック」という投稿を見ました。子どものお出かけ準備を1人でできるか、子どもと6時間以上2人きりで過ごせるか、歯磨き寝かしつけができるか、離乳食をつくれるかといった項目が10段階で評価されるものです。このようなチェックリストを父親向けの講座で使用し、「芦屋市のパパ検定」を作成して、パートナーに採点してもらうのはどうでしょうか。講座と組み合わせることで、父親が楽しみながら参加できるきっかけになるかもしれません。

事務局／小杉：楽しそうなアイデアで、参考にさせていただきます。

橋野委員：インスタグラムでは、こどものお弁当を作る父親の投稿も見られます。

長谷委員：私自身、10 数年、平日の朝のお弁当作りを続けていました。その経験がこどもたちとの良好な関係につながっていると感じています。こういった成功体験を発信することも、効果的なアプローチの一つだと思います。

中里会長：時短スキルとしても汎用性が高いため、お弁当講座はいいと思います。

勝部委員：体験談を聞くということは効果的だと思います。育児休業取得者は増えているとはいえ、まだ少数です。セミナー形式でなくても、「パパタイム」のような機会に体験談を共有するなど、気軽に父親が参加できる機会があればよいと思います。また、育児休業取得について検討しているプレパパに対して、体験談を聞く機会を提供することも重要であると思いました。

須澤委員：男性の中には、「妻には家事で勝てない」と思っている方もいるかと思います。そこで、IT 系のプログラミング教室のように、男性が得意意識を持ちやすい分野で講座などを開催してみてはどうでしょうか。こどもの将来を考えるきっかけになるかもしれません。

西海委員：参考までに、育児に関するセミナー後のアンケート結果から、今後行ってほしいセミナーの回答として、育児休業明けの不安や復職後の悩み相談、子育て世帯向けのマネープラン、そして発達障害を持つこどもへの教育やお金の心配事に関するセミナーが挙げられました。

事務局／小杉：先ほどから話題になっております「パパ向け料理講座」は、昨年度も参加者が少なかったため、今年度は「防災」という名称は出さずに土曜日に実施しましたが、参加者数はさらに減少しました。ライスペーパーなど、日常的でない食材がハードルとなった可能性を反省しています。参加者の満足度は高かったため、周知方法や内容を改善していきたいと思います。また、長時間の開催を理由に一時保育を実施しなかったことも影響した可能性があり、来年度以降は時間短縮や一時保育について改めて検討していきたいと思います。

新妻委員：男性の育児休業取得率上昇により、ハローワークでの育児休業給付金の申請が増加しています。しかし、取得期間は1～2日、長くても1週間という短い期間の人と、長期間取

得する人との間で二極化しているのが現状です。講座参加へのハードルが高いため、育児への意識が高い層に向けた講座だけでなく、気軽に参加できるような、幅広い層に向けた講座も必要だと思いました。

中里会長：調査をしていると、育児休業取得期間は2週間が定着しつつあります。短期間取得から長期間取得へ誘導する内容の講座も必要であると思いました。

事務局／小杉：父親向け講座の参加ハードルを下げるため、「パパと楽しむ！自然の宝物で作る親子アート体験」などでは、父親が参加するなら母親の同伴も可能とするなどの工夫をしています。

橋野委員：兵庫県立芦屋高等学校のボランティア部によるポリ袋を使った防災食作りでは、多くの父親と子どもが参加し、子どもたちも楽しんでいる様子でした。大人が教えるのではなく、高校生のような子どもと年齢が近い世代が教えるということも効果的だと思いました。

勝部委員：芦屋市在住高校生市民活動プロジェクト「あしや部」だけでなく、地域で活動する中高生も増加しているため、そういった学生と連携するのもいいかと思います。

中里会長：子どもが生まれるとライフスタイルが定着してしまうため、プレパパ向けの講座を行うことが戦略的に重要だと思います。

橋野委員：子育て経験のある母親たちが、妊娠中や産後の母親を対象に、簡単な講座や、悩みを共有しながら食事をする事業を運営しています。この事業は平日の昼間に開催されており、今後連携するのも効果的だと思います。

須澤委員：先ほど申し上げました、明石市の講座の集客方法についてですが、スマートスクールアプリという学校の連絡アプリを活用したところ、講座の参加者が増加したそうです。

中里会長：周知方法については、民間企業や、個人事業主の方を含め相当工夫されていると思うので、市としても情報収集をしていただければと思います。

事務局／小杉：ありがとうございます。

中里会長：それでは、これで議事を終了します。今後の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局／小杉：たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。議事の女性活躍推進事業につきましては、いただきましたご意見を活かしながら進めさせていただきたいと思います。次回の開催は令和8年2月頃を予定しており、令和8年度に実施予定の市民職員意識調査についてご意見を伺います。この調査は第6次男女共同参画行動計画策定の基礎資料とするために実施するものです。第2回の会議につきましては、改めてご案内します。なお、本日の会議録につきましては、案ができ次第、皆様にお送りしますので、ご確認をお願いいたします。その後、市のホームページにて公開させていただきます。以上です。

中里会長：それでは、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。